

# Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)  
『地域創生の担い手を育み活気あふれるふくいを創造する5大学連携事業』  
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



## 「新しい年にあたって」 ふくいCOC+事業推進協議会議長 新年メッセージ

新年明けましておめでとうございます。

一昨年から「地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業」がスタートしました。この取組みは、県内の4年制大学5校のすべてが参加し、自治体・産業界などの協力を得て、5大学の学生が福井駅前の大学連携センター(Fスクエア)に集い、一緒に地方創生に関する様々な勉強をしていることが大きな特徴の一つで、28年度後期は700名を越える学生がそこで学んでいます。

福井県では、大学への入学、卒業、就職を契機とした若者の県外流出が続いています。本事業は、もっと多くの若い人たちに福井に根付いてもらう為に、地域に関心を持ち、理解を深める、地域志向科目を5大学の学生に提供しています。同時に、地域でのフィールドワークやインターンシップを実施して、座学だけでは得られない、地域の課題を解決する能力を身に付けた人材を育成するという、福井の特色を生かした取組みを進めています。

また、この事業では新しい産業の開拓による雇用創出も期待されています。

このように、ふくいCOC+事業は地域の持続的な発展のために、「地(知)の拠点」としての大学が、入学から卒業までを、地域と協力しながら取り組んでいるものであり、関係者各位には、地域創生に向けた新しい発想に基づいて主体的に行動して頂くことをお願いして、新年の挨拶といたします。

ふくいCOC+事業推進協議会議長 福井大学長 眞弓 光文



## 平成28年度後期 COC+開講授業風景をご紹介します!(その2)

2016年12月号(Vol. 3)よりスタートした平成28年度後期COC+開講授業風景の紹介を、今月号も引き続き紹介します。

福井大学 非常勤講師  
被災地NGO協働センター 顧問 村井 雅清先生  
土曜3, 4限「災害ボランティア論」

この講義は、毎回異なる分野の教員または、ボランティア活動を指導する外部講師から構成されている内容であり、幅広い基礎的な知識を得ることができるのが特徴です。取材した当日の講義は、被災地NGO協働センターの顧問である村井先生が、ご自身の体験談を交えながら、初心者ボランティアから学んだことや、ボランティアコーディネーターの難しさを学生達に伝えながら、「ボランティアについて堅苦しく考える必要はない。十人十色の役割があり、型にはまらない事が大切だ」と熱く語りかけていました。講義の最後には「ボランティア活動時の心構え」や「理想的なボランティアセンターとはどのようなものか」を学生一人ひとりが真剣に考えているのが印象的でした。



「災害ボランティア論」  
の授業風景

(取材日：平成28年12月17日)

福井県立大学 経済学部  
田中 求之先生、桑原 美香先生  
土曜3, 4限「福井で働くということ」

この講義は、福井県にはどのような仕事があり、働き方があるのかを学び、福井の社会に対する視野を広げてもらうことを目標としています。取材した当日の授業は、県立大学卒で、大学で学んだことは全く違う道を進んだ社会人の先輩をお招きし、現在に至った経緯や自身の「働くということとは“を先生と対談しながら学生に伝えるというものでした。経済学部卒で、アメリカやフランスなど世界中を渡り歩き、現在は福井でオリーブオイル専門店を営んでいる中辻さんは、自分が求めていたモノを形にするという熱い思いをもって今の仕事に至ったとお話していました。また、同じく経済学部卒の荒川さんは、現在アートマネージャーとして働いており、作品を通して様々な人に出会える仕事と紹介し、学生のうちに色々な人に出会い、“輪”を広げることの大切さを学生に伝えていました。

(取材日：平成28年12月24日)

## 福井商工会議所常議員と意見交換会を開催！

ふくいCOC+事業協働機関である福井商工会議所との意見交換会が川田会頭、岩井事業責任者(福井大学理事)出席のもとで12月1日に開催されました。9月1日の会議所会員全体に対するCOC+の説明会を受けて、今回は常議員の方々、本事業を具体的にどう進めるかについての意見交換会となりました。(出席者 商工会議所29名 大学6名)

「地域創生」の要である若い人達が福井に根付くために産業界・大学がどう取り組むかについて、「学生支援と企業の必要とする人材の養成」という観点で活発な議論がなされました。今後の目標達成に向けての進め方については、会議所の中小企業活性化委員会と大学が話し合いをしていくこととなり、12月中に同委員会進藤委員長の出席も含め2回の話し合いが開催されました。



福井商工会議所常議員の方々  
と意見交換会の様子

## インターシッパWG

## 海外インターシッパ視察in台湾 レポート

福井県には、優れた技術と商品を有し世界的なシェアを持つ企業が多数存在します。そして学生がそれらの企業の魅力を学び、有望な就職先であることを十分に意識できるようにする必要があります。また、県内に在籍する外国人留学生は、近年300人程度であり、県内の大学全体に占める割合としては3%に過ぎず、県内に就職する人数は極めて限られています。これらの状況を解決するためCOC+に参加する大学教職員及びコーディネーターが、台湾を訪問して、インターシッパ実施や留学生獲得のための現地調査と方策の検討を行うことを目的に視察しました。

この視察は、COC+事業責任者である福井大学の岩井理事を団長として17名が参加し、12月10日から14日までの4日間実施し、その訪問先は、日本台湾交流協会、工業技術研究院及び県内進出企業である台湾日華化学工業でした。この訪問を通して台湾における経済環境の動向・特長として「黒字化している日系企業の割合が多いこと」「製品品質の確保が容易であること」、また日本から高校生が大挙して修学旅行に来るぐらいの「気安さ・安全性があること」を考えると、台湾は海外体験の入門地域であり、この点での魅力は見逃せないとの印象をうけました。この訪問を通して5大学の連携が強化される取組みでもありました。



視察参加者17名  
台湾日華化学工業前にて

## まちづくりWG

## 『「核のゴミ」の処分問題を考えるinふくい2016』を開催！

12月17日午前、福井県織協ビルにて、県内3大学〔福井大(主催)、県立大、福井工大(ともに共催)〕の学生約30人が参加、日本原子力産業協会にも共催いただき、原子力発電所が運転した後に発生する未解決の高レベル放射性廃棄物、いわゆる「核のゴミ」の処分問題をテーマにした対話の場を開催しました。専門分野が異なる若い世代同士で、ものの見方や考え方を共有し交流する場として、2008年度からこれまでに仁愛大や福井高専も参加し5回にわたり実施してきました。6回目となる今回は、まず専門家による講演の後、5つのグループに分かれて自由な意見交換を行い、その後、グループ発表によって認識の共有を図りました。「個々人の興味や関心に沿った情報提供」「賛成反対といったさまざまな立場からデータを公開し理解と信頼を得ること」「小中学校での授業で話し合いの場を持つこと」「説得力のある説明や新しい処理方法を確立すること」「国民性を考慮した本音で語ることができる環境づくり」といった意見や提案が出されました。国は、近いうちに処分場の候補として調査するにあたり有望とされる場所を示すとしており、ますます注目が高まります。今後も継続してこのような機会を設けていきたいと考えています。

(福井大学特色人材部門まちづくり分野 川本義海先生より寄稿いただきました。)



「核のゴミ」の処分問題についてグループで意見交換・発表する様子

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年は北陸では珍しい、澄み渡った青空での気持ち良いスタートとなりましたね。私自身は、節分までは「後厄」真っ只中...(笑)とあり、節目の年になりそうです。平成29年度末にはCOC+の取組みの一つである「ふくい地域創生士」が誕生する節目でもあります！本年も引き続き、産業界等を始め、地域の皆さま、各大学教職員の皆さまと「オール福井で、学生・ファースト」の観点で共に前進していきましょう！(大林)